

<とある Facebook の投稿から>

田中 元子

11月5日 18:50

彦根の皆さん、きいてください。

異邦人のわたしから見ると、彦根はとつてもすてきなまちでした。ひこにやんで名を馳せた割に、びっくりするくらいなんもない駅前。それでも歩いているうちに、この地域の土着性が色濃く残った民家に、いくつも出会いました。それらを再解釈して商いをしている、センスのある方もいるようです。さびれた商店街も同様です。ちょこちょこ顔を出してくれている、食器や古本、オリジナルデニムにスイーツといった、個人商店の数々。この街で人生を謳歌する、楽しい人々がいることがわかります。

昔ながらの喫茶店に入ったら、とつてもすてきなマスターがあたたかく迎えてくれました。別の席では、お客さんのおじいさんとおねえさんが偶然会って、久しぶりだねって話し始めました。彼女はわたしにまで、やさしく声をかけてくれました。そんな関係が、どんなにかけがえないか、わかりますか。

一方で、皆さんが観光名所としてたくさんおかねをかけて設えているキャッスルストリートは、ひどい有り様です。そこにはなんの文化も個性も感じられません。四番街スクエアに至っては、目も当てられません。ここであまりに興ざめして、結局、彦根城の中にも入ることはありませんでした。博物館前で、ひこにやんだけは見たけれど、それはグラビアアイドルの撮影会であって、観光ではありませんでした。

夜に再び街に出て、中国の方がされている整体に行きました。これまででベストと言えるような腕前でした。彼はそこで6年ほど店をやっているようで、彼から見た彦根のことを、いろいろ話してくれました。長くやっていると友だちができるのがうれしい、と言いながら、ガラスの向こうの通りがかりのひとと、手を振りあっていました。

ホテルに戻る道すがら、ほとんどシャッターの閉まった静かな商店街に、ベースの音が響いていました。まだそこだけ明かりのついた楽器屋さんで、試し弾きをしているようです。ああ、この街には音楽を演るひとまでいる！

これだけのことを、どんなに短い時間で、見たり聞いたり話したりしたか、わかりますか。この街が、生きているからです。ここが、面白い街だからです。なんにもない街なんてない。でも逆に、名物があるっていう街ほど、それにあぐらをかいて、大事なものを見失う。彦根はいま、そのどちらの道にも歩める、交差点に立っている街でした。

彦根の皆さん、覚えておいてください。あなた方がそこに生きる上で、何気ないけど大事なものの。それこそが、次の世代の財産なのです。自然も城も城下町もゆるキャラも、他にもあるのです。皆さんの他愛ない、かつかけがえのない日常を彩るささやかなものたちを、どうか大事にしてください。それらすべてが、手放したら二度と戻ってこない、そしてふたつと同じものはない、すてきな生きものなのです。

それと。

全国の市町村の皆さん…わかってください。異邦人だけがみつけることのできるこれらの財産は、わずかでも自由な時間があるこそ、見つけられたものなのです。お呼び頂いた街に降り立って、間髪入れずにアテンド、ご案内…。お気持ちは本当に有難いのですが、もったいないです。せっかくわたしのような異邦人を呼ぶなら、もっとしたたかに、利用してください。一日、いや半日でもいいです。街に、自由に泳がせてください。そのとき得たものを、皆さんの街の未来のために、還元させてください。わたしは、地図すらない状況でこそ街の息遣いに気付くことができる、プロフェッショナルなのですから。

<facebook-自己紹介文より抜粋>

株式会社グランドレベル代表取締役。洗濯機やアイロン、ミシンのある喫茶店「喫茶ランドリ～」を運営。弊社事務所もその片隅に。近著に「マイパブリックとグランドレベル -今日からはじめるまちづくり-」（晶文社）